

ジャガイモと映画 (23)

<ジャガイモ嫌い>

Web ジャガイモ博物館館長

あさ ま かず お
浅間 和夫

81. 『アイドルを探せ』

1987年邦画、監督：長尾啓司。

同名の洋画もあるが、ここでは菊池桃子の初主演の映画を取り上げたい。藤谷知香子（菊池桃子）は、高校卒業を機に初めての一人旅としてグアムに向かう。そこで中学時代に憧れていた永江や彼の先輩の岩田（竹本孝之）達と知り合う。帰国後短大に進学し、アパート暮らしとなるが、そこにはグアムのバスガイドをしていた千明やマンガ家志望の甘露寺恵（伊藤かずえ）もあり、親しくなる。

ある日、知香子は岩田から愛を告白されるが、プレイボーイの永江に魅かれているため愛を受け入れることができない。その岩田は父親が倒れたため、大学をやめて田舎に帰って行き、絵葉書をよこす。知香子は急に岩田に逢いたくなり、永江に内緒で甘露寺と共に電車に乗る。その晩、アパートに戻ると、永江が外で待っていた。その後のデートで、知香子は永江と一晩を過ごすことを決心する。

そんな時、岩田の幼なじみという女性、笑子が知香子を訪ねて来て、岩田が来ているはずだと逆上している。現われた岩田は、もう一度知香子に逢って心の整理をしたかったというが、笑子は死んでやると飛び出す。それを追った岩田は二人で田舎に



写真1 ジャガイモ嫌いの菊池桃子

帰って行く。ショックを受けた知香子は、一晩を泣いて過ごす。そして、永江のマンションを訪ねてみる。しかし歳上の女性と一緒にいたため、雨の中を出て行く。永江はバイクで追いかけてきて傘を差しですが、知香子は恋人にはなれないと彼から去っていくのだった...

この映画にジャガイモは出てこなかったが、両親が北海道生まれの菊池桃子について触れておきたい。2019年5月4日放送の『メレンゲの気持ち』（日本テレビ系）に出演し、久本雅美との対談で“ジャガイモが

嫌い”ということを20年以上も子供に隠していたことを告白したためである。その告白に対し当時22歳になる長男、17歳になる長女は「お母さん、今までよく隠せてたね」、「『北海道のジャガイモ最高!』って言うってじゃん」などと驚き。菊池は「嘘^{うそ}ついてごめんね」と謝ったのだという。「肉ジャガとかポテトサラダとかを食べたふりしていたが、親の影響ってすごく大きいから、子供もそうなったらいけないと思って、その素振りを見せなかった」、と。そして子供から「ママは、芝居が上手い」って言われたとも語った。これに対し、久本雅美から「そんなところで女優魂を発揮してどうする」と突っ込みを入れられていた。

82. 『エリザベス 女王陛下の微笑み』

(原題：Sling Blade)

2022年、イギリス映画。監督：ロジャー・ミッシェル。

エドワード8世が国王となって1年足らずで退位した。替わってエリザベス2世の尊父・ジョージ6世が王になり、エリザベスが王位継承者となる。その後、1952年にジョージ6世が逝去、そこでエリザベス2世が25歳で即位することとなる。以後公務を日々精力的にこなし、チャールズ皇太子、アン王女、アンドリュー王子、エドワード王子の母の役も務め、2022年2月6日に在位70周年を迎えたが、9月に逝去する。映画は親しみやすい微笑みで、国民のアイドル・母として慕われた英国君主エリザベス2世の95年間の歩みに迫るドキュメンタリーである。即ちその類まれなる旅路を、女王への深い愛と畏敬の念をもって、過去と現在を交えた映像を、詩的あるいは時に



写真2 エリザベス女王

ポップに描き、ビートルズ、エルトン・ジョンなど著名人たちのインタビューや貴重なアーカイブ映像を通じ、広く愛された女王の知られざる素顔と魅力に迫るものである。

筆者の意図的わがままで、映画とは離れるが、女王の食べ物について書いておきたい。多くの人に接する必要があるから、身の安全だけでなく、公務への影響を避けるために口臭や体調にも気をつけておられたと言う。ニンニクを食べないのはよく知られたことであり、タマネギも避けていた。イギリスと言えばジャガイモが主食のように食べられ、市民はフィッシュ&チップス(揚げジャガ)とかオープンで焼いたものを好んで食べることが知られているが、ロイヤルファミリーでは口にしなかったと言

う。理由はでん粉質が多いためであり、パスタやお米も同様の扱い。女王は元気の源は食生活にあるとの考えを持っておられたが、食べ物に口やかましいタイプではなかったと言う。サラダやフルーツは大好きであり、野菜や果物は季節のものを好み、バナナも大好きだったとか。トマトやきゅうりはその種子が菌に詰まるため、種子を除いていた。肉はレアではなく、ウエルダンを好み、ツナマヨネーズのサンドイッチ、チョコレート関連が大好きだが、パンの耳は食べなかったとか。女王の一日は紅茶とビスケットで始まり、シリアルとフルーツが多かった。卵はほぼ毎朝食べ、殻の色は茶色いものが美味しいとして選ばれ、酒はジン入りのカクテルを好み、毎晩、1杯のシャンパンを楽しんだようだが、ビールは苦手らしかった。

83. 『野のなななのか』

2014年、邦画。監督：大林宣彦。

雪の3月、北海道芦別市で古物商《星降る文化堂》を営む元病院長、鈴木光男（品川徹）が92歳で他界する。葬儀の準備をするため、鈴木家の面々が故郷に集ってくる。大学教授の冬樹（村田雄浩）、原発職員の春彦（松重豊）、看護師のカンナ（寺島咲）らは、久々の対面であった。

そんな中、「まだ、間に合いましたか〜？」と謎の女・清水信子（常盤貴子）が現われる。加えて信子が持っていた一冊の詩集を買い求めたひとりの少女・綾野（安達祐実）の姿も見える。不意に現れては消えた信子により、1945年8月15日前後にソ連軍の侵攻があった樺太（サハリン）で、混乱を体



写真3 常盤貴子（右）と安達祐実

験した光男に起こったことが明かされていく。そして清水信子の正体とは？ 信子と綾野の関係は？ 生と死の境界線が曖昧な“なななのか（四十九日）”の期間に生者も死者も彷徨い人となり、家族や古里が繋がっていることを学んで行くことになる・・・

大林宣彦監督の口癖に“ふるさと孝行をしよう”、が知られている。この映画は芦別市を舞台に市民総出で協力したふるさと映画であり、法要のシーンには百数十人がエキストラで出るなどボランティアの協力があつた。広島県尾道市で1938年に生まれていた監督の話が『日経電子版』2015年5月1日に載っていた。曰く「物心ついたときには戦争が始まっていた。自らを「敗戦少年世代」と呼ぶ。食べ物がないのは当たり前。イモと豆が主食だった。サツマイモは御馳走。ジャガイモならちょっと悲しい。何故ならサツマイモは甘かったから。ジャガイモを美味いと思えるようになったのは最近のことだ。」砂糖の不足した戦中・戦後、子供の代用食には甘いサツマイモ（北海道ではホクホクの西洋南瓜）の方が好かれたのはよく分かる話である。